

## 第43回横浜開港祭で護衛艦「ゆうぎり」を一般公開 ～古い写真と未来の自衛官～

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂1等海佐）は、6月1日（土）、2日（日）、第43回横浜開港祭に参加し、海上自衛隊の護衛艦「ゆうぎり」の一般公開などを行ないました。

横浜港大さん橋の会場では、陸上自衛隊第31普通科連隊による炊事車などの装備品展示や陸上自衛隊高等工科学校の和太鼓部と吹奏楽部の演奏のほか、広報ブースの出展などを実施しました。神奈川地本キャラクターの「はまちゃん」も相変わらずの人気で、来場者写真撮影をするなど会場は大いににぎわいました。

1日（土）には、募集対象者31名を「ゆうぎり」の見学に招待し、参加者たちは、間近で見る護衛艦の姿や艦橋から眺める横浜の景色に歓声を上げ、乗員から艦内各部の説明を聞いて操舵室や甲板などで熱心に質問するなど艦艇見学を楽しんでいました。

参加者の中には、「これは横須賀の祖父の家にあつたものです」と、「護衛艦ゆうぎり竣工記念・平成元年2月28日」と書かれた古い写真を持参してくれた大学生の女性もいて、写真を見た乗員たちは36年の艦の歴史に感慨を深めていました。また、一般曹候補生1次試験を受けてきたという大学生や、「現在、調理師学校に通っていますが、自衛隊入隊を検討しています」と話す参加者には、広報官が丁寧に対応しました。

また、2日（日）には、いつも艦艇見学イベントに来てくれる小学生の男子児童が今回も会場に来てくれました。海上自衛隊の大ファンで、「一番好きな護衛艦は『いずも』、海軍に入って砲雷長になるのが夢」と話す児童は、神奈川地本の大本部長に自分で描いた護衛艦と輸送機の絵をプレゼントしてくれ、隊員たちは、「また来ます」と手を振りながら帰る未来の自衛官を笑顔で見送りました。

神奈川地方協力本部は、「これからも、自衛隊の理解促進と防衛基盤の拡充を図るべく、各種広報活動にまい進していきます」としています。



## 「中学生職場体験」を支援して

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻昌晋1等陸尉）は、6月14日（金）、陸上自衛隊第4施設群の協力を得て、東海大学付属相模高等学校・中等部（相模原市南区）の3年生の生徒10名の座間駐屯地（相模原市南区）での職場体験を支援しました。

これは、中学生が「働くこと」「生きていくこと」の尊さを実感し、自己を見つめ、自分の生き方について考えること等をねらいとして相模原市が実施している「令和6年度さがみはら中学生職場体験」の一環として行われたもので、当日は、座間駐屯地の概要説明、装備品装着体験、6人用天幕設置体験、体験喫食、資料館見学などのほか、地元の歴史紹介として旧陸軍士官学校跡地の見学も実施しました。

参加した生徒からは、「今回の職場体験を通じて、地元相武台の歴史や自衛隊のこと、チームワークの大切さを学びました」、「自衛隊は、とても大切で重要、すばらしい仕事だと思いました」、「体験喫食した『しらすのペペロンチーノ』は、おかわりしたいほどおいしかったです」、「自衛隊の生活を体験してみたいです」など、自衛隊の仕事や生活に関する感想が聞かれ、自衛隊に対する関心と理解を深めてもらえた有意義な1日となりました。

相模原地域事務所は、「今後も、地域の中学校との連携を密にしながら、自衛隊の活動を積極的にアピールしていきたい」としています。

